

## 1 多様なアプローチ（きっかけづくり）による里地里山の再評価と協働による取組の進展

### ⑤環境教育・地域学習のフィールドとしての里地里山に着目し、環境教育活動等として保全再生活動に取り組んでいる例

#### 神奈川：地域の農家との連携によるたんぼ学習

秦野市北地区では 30 年近く耕作されていなかった棚田で、北小学校児童が米づくりの体験学習を行った。作業は地域の農家らが指導し、代掻き、田植え、稲刈り、脱穀などを手作業で行った。子どもたちからは、不慣れな作業も教わってできるようになり楽しかったこと、生き物がたくさんいたことが印象的だった、といった感想が寄せられた。

東地区でも休耕田をたんぼにもどし米づくりを行う活動が、東中学校の生徒の参加で行われた。現場はもともと湧水のある谷津で、その湧水は昭和 30 年頃まで学校の水道水源となっており、その下に水田があった。しかし水道の整備で水源は使われなくなり、ぬかるむたんぼは放棄され、竹林に覆われていた。その場所を復元する活動を東地区として行い、竹林整備からたんぼ復元・収穫まで、一貫して中学生も参加した。田植えのときには、ホトケドジョウやカエル、イモリ、ヘビなどが復元したばかりのたんぼ周辺に現れ、生徒の歓声がこだました。

上地区でも、生き物の里として保全している湿地の一部をたんぼに復元し、ここを研究フィールドとしている大学生や市民ボランティアが、無農薬栽培でのたんぼ学習・周辺湿地の生物調査などの環境学習を行っている。

「生産」という目的だけでは休耕にならざるを得なかったたんぼも、環境学習のフィールドとすることで身近な自然や生き物とのふれあい、地域との交流、共同作業、食育、長年の生業経験を活かした地域住民の指導者としての活躍など様々な機能が発揮され、参加者にとっても受入側の地元農家にとっても、里地里山の再評価と、保全再生の意義の認識につながっている。



北地区菩提 北小学校の田植え



東地区東中学校生徒が参加したたんぼ